

ボランティア volunteer

ボランティアセンターだより
2012.11
大崎市ボランティアセンター

サマーチャレンジボランティア 2012 レポート summer challenge volunteer 2012



【図上訓練】大雨で川が決壊し、冠水や土砂崩れが…住民全員が早く安全に避難できる方法を考えました。



チャレンジ① 「バーチャル防災マップ体験」

2012-08-02

バーチャルマップを使用し、災害模擬体験を行いました。実際に災害が起きた時、「一人ひとりがどう行動すれば良いのか」「どのように助け合いながら避難ができるか」をグループごとに話し合いながら真剣に取り組んでいました。

街の危ないところ、安全なところを皆で発見し、ポイントを地図に書き込みながら自分たちの住む地域の防災について考えました。



チャレンジ② 「防災マップ調査隊」

2012-08-02

防災マップ作成に向けて、大崎市内(市役所周辺・イブラザ周辺)の現地調査を実施しました。普段の生活や災害時に危険と思われる箇所、また、それとは逆に避難できそうな広くて安全な箇所を調査し、バーチャルマップ体験での話し合いを活かし、防災倉庫や消火栓・自治会の掲示板など、災害時に活用できる物や役立つ情報を見つけることもできました。

平成24年8月2日(木)～8月3日(金)の2日間にわたり、大崎市内の小学5年生から中学3年生を対象に、夏休み期間を活用したボランティア活動体験を実施しました。

福祉やボランティアに対する理解を深め、誰もが安心して暮らせる地域を目指したボランティア活動へのきっかけや福祉の心を育み、支え合い・助け合いの大切さを学び、その観点から防災への備えや意識向上させ、共に考える場とすることを目的に開催。

講師には、NPO法人 ディー・コレクティブ 代表 千川原 公彦 氏をお迎えし、小中学生15名、大学生ボランティア6名 計21名の参加者のもと、「防災マップを作ろう!」をテーマに取り組みました。

2012-08-03

チャレンジ③ 「防災マップを作ろう」 ～防災マップの発表～

いよいよ防災マップ作成です。

東日本大震災の爪あとにより、災害時だけでなく普段生活していても危険な箇所が多くあり、1日目に現地調査した内容をもとに、写真を活用しながら、誰が見ても分かりやすい防災マップを作り上げました。



道路・建物周辺等で危険な場所、安全な場所、また普段の生活で地域住民が気づきにくいポイントなど、皆で意見を出し合いながらマップの作成。

完成した防災マップの発表では、子供たちだからこそ気づく視点が盛り込まれ、完成度の高いマップに仕上がりました。

参加者からは、「近所でも普段目に付かない、危険な所があることが分かった」「自分達の地域の防災についても考えていかなければならない」「今回の経験を活かして、できるだけ地域の人たちの役に立ちたい」と力強い言葉を聞くことができました。



1班



2班

